

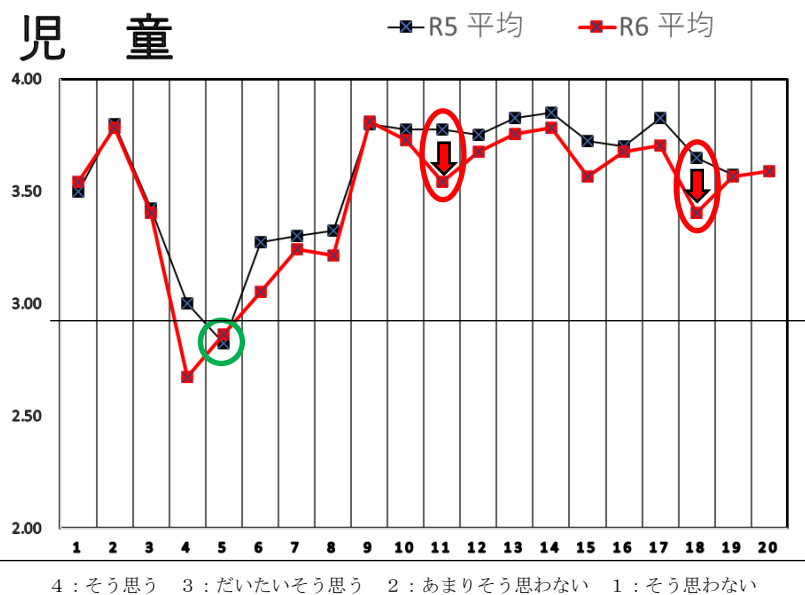
令和6年度 学校評価結果集計と分析

令和7年2月3日～2月7日実施 児童 37名 保護者 27名 教職員 12名

1 児童 (37名)

- 1 わたしは、学校へ行くのが楽しい
- 2 わたしは、友達となかよくしている
- 3 わたしは、みんなにあいさつをしている
- 4 わたしは、早寝・早起き・朝ごはん、毎日うんちができています
- 5 わたしは、生活や学習の中で、困ったことや課題に**自分で工夫**して取り組んでいる
- 6 わたしは、めあてをもって勉強したり運動したりしている
- 7 わたしは、どんなことにもあきらめずに取り組んでいる
- 8 わたしは、みんなのためになることを進んでいる
- 9 先生は、よくわかるように教えてくれる
- 10 先生は、わたしたちをよく見ていてくれる
- 11 先生は、いじめやけんかのときしっかり**話を聞いてくれる**
- 12 先生は、よいことをしたときほめてくれる
- 13 先生は、命の大切さを教えてくれる
- 14 わたしは、安全な自転車の乗り方や歩き方をしている
- 15 わたしは、地震やふしん者から自分を守るやり方を知っている
- 16 わたしは、うしのけ山で遊んだり、亀山校区の見学をしたりすることがすきだ
- 17 わたしは、かめの子班活動で他の学年の子と遊んだり運動したりすることがすきだ
- 18 わたしは、汗の広場で**野菜を育てることがすきだ**
- 19 わたしは、「うしのけ」やおたよりを、必ず家の人に見せる
- 20 複式学級で、他の学年といっしょに学校生活を送ることはプラスになる（3～6年）

児 童



(1) 高評価の項目について

2「友達と仲良くしている」、9「よくわかるように教えてくれる」は、昨年度に引き続き高評価をキープしている。2は、かめの子班活動や休み時間に、学年関係なく仲良く遊ぶ姿を毎日見ることができる。また、9は、先生方が一人一人を大切に指導していることが、子ども達に実感として伝わり、高評価につながっていると考えられる。

(2) 低評価の項目について

4「早寝・早起き・毎日うんち」、5「自分で工夫」、6「めあてをもって勉強・運動」は、昨年に引き続き評価が低くなっている。5・6の項目は、学習の場面で、自分の「工夫」や「めあて」を自覚できていない子が一定数いるのではないかと考えられる。

(3) 令和5年度との比較（上がっているもの ○印、下がっているもの ●印）

4「自分で工夫」が、低いながらも微増している。これは今年度の現研テーマ、「学びあいの中で自分の考えを深めることができる子」を目指し、先生方が様々な取り組みを行ってきた成果が少しずつ現れてきていると考えられる。逆に11については結果を真摯に受け止め、今後も、子ども目線に立って一人一人に向き合っていくしかないだろう。また、18はキャベツ栽培がなくなったことが起因しているかもしれない。汗の広場で栽培するサツマイモ、ヒマワリ、菜の花を活用した学びを創造していきたい。

今年度は複式学級3年目を迎えるということで、20「複式学級はプラスになる」という質問を新たに3から6年生に設定した。ほぼ全員が「そう思う、だいたいそう思う」と答えた。その理由は、「他学年と仲良くなって、学校が楽しい。」「(上の学年が) お手本になってくれる。」「勉強が楽しい。」「下の学年ががんばっている姿を見たら自分もがんばろうと思う。」など、楽しく授業に取り組んでいる様子がうかがえる。

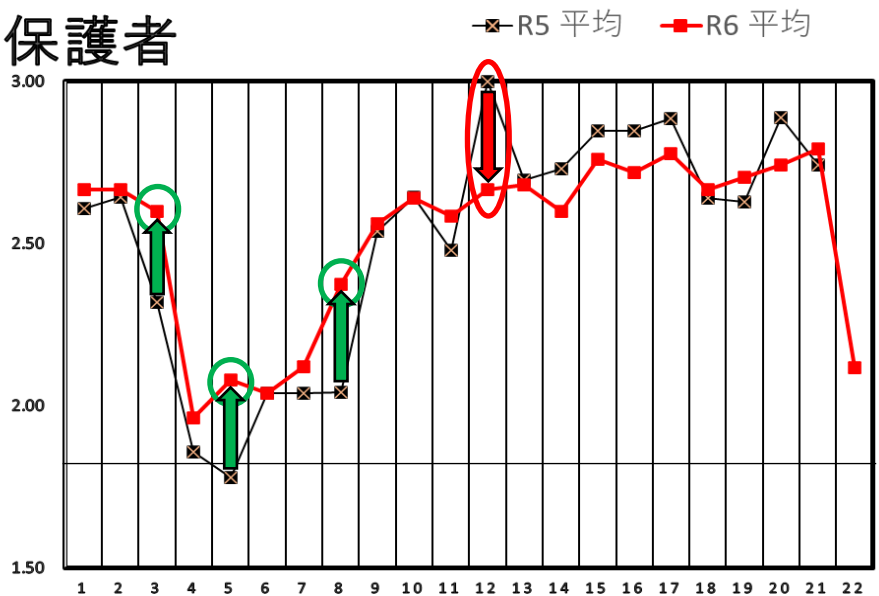
(4) 今後の課題

「少人数の良さ、複式の良さ」をさらに引き出すために、子ども達と教職員双方のスキルアップを図り、「主体的で対話的な学習」を推し進めていく必要がある。今後も一人一人の子どもの声をよく聞き、丁寧な指導を心掛け、子ども達が毎日楽しく登校できる学校を目指していきたい。

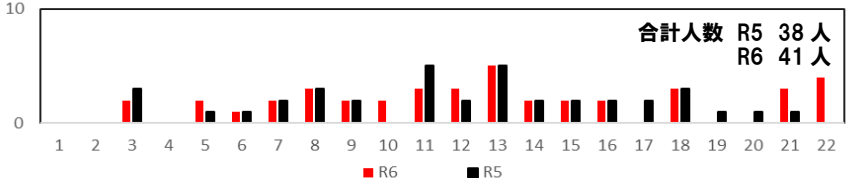
2 保護者 (28 名)

- 1 お子さんは、楽しく学校へ行っている
- 2 お子さんは、友だちとなかよく生活している
- 3 お子さんは、みんなにあいさつをしている
- 4 お子さんは、早寝・早起き・朝ごはん、毎日うんちができています
- 5 お子さんは、生活や学習の中で困ったことと課題に自分で工夫して取り組んでいる
- 6 お子さんは、めあてをもって勉強や運動に取り組んでいる
- 7 お子さんは、どんなことにもあきらめずに取り組んでいる
- 8 お子さんは、人のためになることを進んでいる
- 9 先生は、よくわかるように教えてくれる
- 10 先生は、子どもの様子をよく見てくれている
- 11 先生は、いじめやけんかのときしっかり話を聞いてくれる
- 12 先生は、子どもがよいことをしたときほめてくれる
- 13 先生は、命の大切さを教えてくれる
- 14 学校は、交通安全のルールを正しく教えている
- 15 学校は、不審者や地震など安全を守る取り組みをしている
- 16 学校は、ふるさととのよさに気付かせるように教えている
- 17 かめの子班活動で、他学年の子どもとのふれあいを深めている
- 18 汗の広場の活動は、学校にとって大切である
- 19 「うしのけ」やお便り、ブログで、学校の様子や教育方針がよく分かる
- 20 学校は、地域やPTAと協力して活動している
- 21 学校は、保護者からの相談に対して適切に対処してくれる
- 22 複式学級は、子ども達の教育活動に有効だと思う。

保護者



D 「よくわからない」を選んだ人数



3 : よくあてはまる 2 : ややあてはまる 1 : あまりあてはまらない

D : よくわからない

(1) 高評価の項目について

今年度の調査で最も評価が高かったのは、21「相談に適切に対処」だった。続いて17「かめの子班」、15「安全を守る取り組み」であった。子ども一人一人への丁寧な対応、また、かめの子班活動や避難訓練についても、保護者によく伝わっていることがうかがえる。

(2) 低評価の項目について

4「早寝・早起き・朝ごはん、毎日うんち」は例年通り評価が低かった。続いて6「めあてをもって」で、児童の結果と同じ傾向がある。

(3) 令和5年度との比較 (上がっているもの ○印、下がっているもの ●印)

3「あいさつ」、5「自分で工夫」、8「人のためになること」が大きく上がっている。授業での取り組みや、感謝の会の開催などの成果が、子どもを通じて保護者にも伝わっていると考えられる。一方12については、結果を真摯に受け止め、今後の指導に生かしたい。

(4) 今後の課題

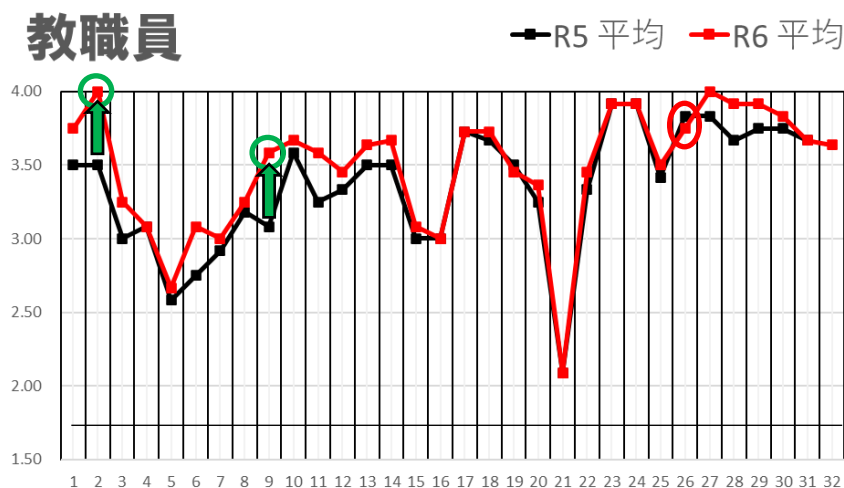
複式学級3年目ということで、22「複式学級は教育活動に有効だと思う」という質問を新たに設定した。結果は、よくあてはまる6人、ややあてはまる7人、あまりあてはまらない3人、よくわからない4人であった。「友達が増える」「いろいろな考え方、経験ができる」など良さを感じた保護者がいる一方、「上学年の勉強は難しい」「学年の行事で、残った学年が心配」などの意見があった。3年目とはいえ、まだまだ複式は始まったばかり。「少人数の良さ、複式の良さ」を生かして、「主体的で対話的な学習」を推し進め、子ども達を育てていくことで、複式の良さがゆっくりと保護者にも伝わっていくと信じ、今後も実践を重ねていきたい。

昨年度に比べて、「よくわからない」を選んだ人数が微増している。これは、学校からの情報発信や、保護者・地域との連携不足等が原因ではないかと考えられるため、これらを改善し、「よくわからない」が減少するよう努力していきたい。



3 教職員 (12 名)

教職員



4 : よくあてはまる 3 : ややあてはまる 2 : あまりあてはまらない 1 : 全くあてはまらない

(1) 高評価の項目について

2「なかよく生活」、27「不祥事防止」は全教職員が「よくあてはまる」を選択しており、教師も子ども達の仲の良さを実感していると同時に、不祥事防止への意識は高い。また、23「報連相」、24「あいさつ・会釈」、28「相談しやすい雰囲気」、29「交通安全」などの評価も高かった。しかし 28 については、教職員の結果と児童の結果に違いがみられるので、子ども目線に立った指導・支援を心がけていきたい。

(2) 低評価の項目について

21「地域素材・ゲストティーチャー」が最も評価が低く、続いて 5「児童が自分で工夫」の評価が低かった。5 は児童や保護者の結果がわずかに良くなっているのに対し、教職員はわずかに下がっているという相反する結果となった。

(3) 令和 5 年度との比較 (上がっているもの ○ 印、下がっているもの ● 印)

2、9 の評価が大きく上がっていた。教職員は、子ども達の仲の良さを感じるとともに、本校の教育目標に向かって努力してきたことがうかがえる。その他は、昨年度と大きな違いはないが、26「健康管理」がわずかに下がっている。十分気を付けていきたい。

(4) 今後の課題

複式学級については、単式学級で行ってきた学習・生活・行事と同じように行おうとすると、どうしても不都合な点はある。しかし、「複式の良さ」を見出し、その良さを実現するために全校で動き出している状態である。子どもの力を伸ばし、子どもに「複式の良さ」を実感させることを目指していきたい。一方、地域素材やゲストティーチャーの活用については、改善に向けて努力していかなければならない。



- 1 亀山小の児童は、楽しく学校に来ている
- ② 亀山小の児童は、友だちとなかよく生活している
- 3 亀山小の児童は、みんなにあいさつをしている
- 4 亀山小の児童は、規則正しい生活リズムが身に付いている
- 5 亀山小の児童は、生活や学習の中で困ったことや課題に自分で工夫して取り組んでいる
- 6 亀山小の児童はめあてをもって勉強したり運動したりしている
- 7 亀山小の児童は、どんなことにもあきらめずに取り組んでいる
- 8 亀山小の児童は、みんなのためになることを進んでしている
- ⑨ 私は、本校の教育目標を理解し、「たくましい亀山の子」づくりをめざし、その具現化と実践に努めている
- 10 私は、教育に情熱をもち、子どもと心のつながりを大切に実践に努めている
- 11 私は、専門性や人間性を磨くとともに、指導力の向上に努めている
- 12 私は、指導組織や校務分掌をもとに、創意と工夫を生かして責任を果たしている
- 13 私は、保護者の思いを把握し、児童の成長を支える援助と情報発信に努め、信頼される学校（学級）づくりをめざしている
- 14 私は、「わかる授業」を展開し、基礎基本となる知識・技能の習得を図っている
- 15 私は、ペアやグループでの協同学習、レポート作成など指導法の工夫や改善に取り組んでいる
- 16 私は、体験的・問題解決的学習などを取り入れ、考える楽しさを実感させるとともに思考力、判断力の育成を図っている
- 17 私は、いじめ防止や発見に努め、互いのよさを認め合える学級づくりに努めている
- 18 私は、元気なあいさつや場に応じた言動ができる子どもの育成に努めている
- 19 私は、道徳や縦割り班活動の充実を図り、思いやりの心や奉仕の心を育てている
- 20 私は、特別活動の充実を図り、たくましい心と体を育てている
- 21 私は、地域素材を生かした学習やゲストティーチャーを活用した学習の実践に努めている
- 22 私は、各種たより、授業参観や学校行事等により、学校（学級）の状況を公開したり、保護者の考えを得たりしようとしている
- 23 私は、重要な案件について、管理職に適切に報告・連絡・相談をしている
- 24 私は、あいさつ・会釈など保護者や地域の人と適切に対応している
- ②⑤ 私は、事務処理は正確・迅速（提出期限を守る）にしている
- 26 私は、心身の健康管理に努めている
- 27 私は、交通違反・情報管理・体罰等、不祥事防止に努めている
- 28 私は、子どもたちが相談しやすいような雰囲気になるように心がけている
- 29 学校は、交通安全の大切さを指導している
- 30 学校は、不審者や地震対策などの安全指導をしている
- 31 教職員は、共通理解し、チームワークよく教育活動に取り組んでいる
- 32 複式学級は、子ども達の教育活動に有効だと思う。

意見欄に書かれていた内容を紹介しします。以下がその全文です。

3～6 児童 複式がプラスになる理由

- ・前の学年の学習を思い出すことがある。(復習になる)
- ・学年が一つ上がったときに、わかっていることや思っていることがあるととてもうれしい。
- ・いろいろなことが分かる。上の学年の勉強ができる。
- ・上学年の授業は難しいときもあるけど、来年の授業が簡単になる。難しいけど楽しい。
- ・上学年がお手本となってやってくれるからまねできる。
- ・5年が分からない問題でも6年が答えてくれる。意味が分からない時も6年生が教えてくれる。
- ・漢字や計算などを教えてくれる。
- ・一緒にいて手伝ってくれたり、「それやって」と言ったらやってくれたりして、頼りになる。
- ・5年が頑張っている姿を見たら、自分も頑張ろうと思える。
- ・友達と遊ぶと、「こんな遊びがあったんだ。」と思える。
- ・他の学年と仲良くなって、学校生活が楽しくなる。
- ・人数が多くなって楽しい。
- ・面白いことを言う人が増えたから授業も楽しい。
- ・あまり仲が良くなかった人と仲良くなれる。
- ・他の学年とはあまりしゃべらないから、よく喋れて、みんなと喋れるようになってよかった。
- ・初めてクラスが一緒になって、関係を深めて、共に寄り添える。
- ・いろんな学年ともっと仲良くなる。
- ・いろんな話が聞ける。

△六送会など6年生に秘密な作業は、時間が少ないから難しい。

△みんなで勉強するとおしゃべりしてしまう。

保護者 複式が有効な理由について

- ・良い面と悪い面がある。
- ・まだ始まったばかりで、よいのか悪いのか分からない。
- ・少なすぎるクラスメイトの中で過ごすより、少しでも多くのクラスメイトと勉強(授業)を行うことで、色々な考え方や経験ができる。
- ・体育や生活などの複式はいいかなと思うが、他の科目はどうなのかなと不安もある。

△人数が増えて友達関係が広がったり、色々な刺激があり良かったと思う部分もあるが、学年ごとの行事(キャンプ、修学旅行など)で残っている方の勉強や活動が心配だ。

△一つ上の学年の教科書を学習するのはやはり難しいようだ。勉強が嫌いにならないか心配。6年へのプレゼント作りなど、時間や場所の確保がないようなので大変と言っていた。放課はきちんとあげてほしい。難しさもあると思うが。

保護者 よりよい学校への意見

- ・少人数での良さが、勉強や学校生活にも表れていて安心して通わせることができる。

△とても良い学校だと思う。5・6年後に1年生が2名(男女各1名)など、児童の減少があり、友だち作りなど、子ども達にとってどうするのが一番良いか考えていただきたい。親も考え中。

△5年キャンプで、到着したとか、無事1日終わったとか、何か連絡が欲しい。宿泊なのでやはり気になる。

△PTAの人数が減ったので、仕事の精選をするなど、負担を少なくしてほしい。

職員 複式についての意見・感想

- ・自然に「助けてあげる」ができるようになる。
- ・下学年はリーダーシップを学び、上学年はフォロアーシップを磨くことができる。
- ・人との関わり、コミュ力が育つ。
- ・上学年を間近に見て勉強などができることが、経験として大きい。
- ・上学年は「自分がしっかりしなくちゃ」という気持ちが向上していると感じる。
- ・毎年学級の雰囲気が変わり、4月に新鮮な気持ちでスタートできる。
- ・学級メンバーが変わり、新しい価値観に触れる機会が増える。

△教科書は発達段階を考慮して作られているので、複式でもそれぞれの学年で勉強していくべきだと思う。

職員 よりよい学校へ

- ・先生から言われたこと、教えられたことはやろうとするが、「自分で工夫して」「自らめあてを掲げて」「自ら進んで」という自主性の部分をもっと育んでいきたい。
- ・「わたり」に取り組む「前向きで建設的」な理論を。まずは職員で共有したい。
- ・地域の方や地域の行事に子どもたちは関わっているが、「協力する」「支援してもらう」レベルである。もっと子供たちが地域に「貢献する」ことを実感できる教育プログラムを取り入れるとよいと思う。
- ・少人数のため「こどもたちの力で学ぶ」という学習が行いづらいが、教師がしゃべりすぎずサポートする立ち位置で進められたらと思う。とはいっても、基礎基本はしっかり学ばせなくてはならないが・・・。
- ・亀山小への「愛着」だけでなく「誇り」をもたせる活動を全校でできるとよいと思う。
- ・思いやりを持って生活している子がほとんどだが、時々「〇〇君もやっている」「〇〇君のことも注意してよ」と、自分のことを棚に上げて言う子がいる。誰もが気持ちよく楽しく過ごすために「将来を見据えた指導」を心掛けていきたい。
- ・清亀交流の場を、行事や学習にも生かしたい。
- ・地域の良さを体感できる活動や学習にしたい。



令和7年1月17日撮影